

子どもも、とっても楽しかったと大喜びでした。私も、昔はこんな遊びをしたなあと懐かしい気持ちになったり、子どもの笑顔を沢山見る事ができて、すごく幸せな時間でした。子ども達は、本当に楽しかったようで、イベント後の帰り道、また、明日行くと盛り上がっていました。ママ達で今日、1日だけだから勝手に入っちゃだめよって言い聞かせました。常設していたらいいね～って参加した皆さんが思っていると思います。私も願ってやみません。(小学生男子母)

口うるさい旦那が居なかったのでのびのび遊べて凄く楽しかったようです。旦那は仕事の都合で行けなかったのが凄く残念そうでした…。もう無いの…って言われちゃいました。(小学生男子母)

想像してたより良かったです！XXは昼ご飯も食べずに夢中だったし、XXは遊具がないから初めは不安そうだったけど、水に入って知らない子と楽しめたみたいです。水をたっぷり使えたから、山側に行けない子供にとっても楽しむことができたね。工夫されてたね。大人の参加の仕方はどうするのか考えちゃったけど、久しぶりに会った友達と話してました。皿まわしやりたかった～。(小学生男子母)

今日はとても暑かったですが家族で夏休みの楽しい思い出になりました。特に下の娘(1才)が夢中になっていたのが印象的でした。(小学生・幼児女子母)

親子共々、楽しい一日を過ごさせて頂きました。昔は、どこにでもあった原っぱや空き地、子ども達には絶好の遊び場でしたよね。残念な事に、なかなか自然の中で遊べない現代っ子ですが、あの日は、たくさんの自然に囲まれ、触れて、楽しむ事が出来ました。一日限りでは勿体無い、残念な気持ちがいっぱいです。いつも、あんな素敵な場所があったら良いですね。(小学生男女母)

最初は少し躊躇していた子どもですが、お兄さんのいきなりのホースからの水攻撃に、一瞬にしてスイッチが入り、テンションが上がっちゃって、それからはずっとプールに入りっぱなしでした・・・ホントに楽しかったようで帰ってから、私にぼそっと「DSよりも、う～んと楽しい0(≧▽≦)o。」って話してくれたんですよ。私も、あんな遊び場が近くにあったらいいなあ～とホントに思います。(小学生男子母)

家のメンズは割り箸ピストル超びたハマリ、今朝も朝5時から二人で打ち合い、あちこちゴムだらけです。それにしても300人！暑い中みんな偉い！主人はあの日は子どもよりも早く18時30分には、寝ちゃってました。(小学生・幼児男子母)

素敵な画像ありがとうございました。どの画像からも、こどもやおとなの優しいまなざしと好奇心があふれています。これですよね。いままでの行政の限界を打ち破ったところにこのイベントがあると思います。はらっぱという位置がまたいいですね。都会にもまだこんな場所が残っているんだ。ついにはらっぱは、経済効果を生まないダメなイメージしかありませんでしたが、はらっぱにとっての復権でもありますね。それを産み出した人のつながりと情熱。リキまないスタンスがつたわってきまーす。地元の人の存在が基本ですね。(静岡県の応援団男性)

## 実行委員・スタッフ感想

8月29日は太陽がギラギラしていて、暑かった!!でも、それに負けない位、あの場にいたみんなの思いはアツかったと思います。そして、子どもたちのパワーもアツかった!私は、当日はもちろん楽しかったのですが、実行委員会で皆さんに出会って、冒険遊び場をつくろう!!って、話し合っていくプロセスがホント、楽しかった。こんなノリのいい、オモシロい大人たちがいるんだなあ~って。そして、当日の子どもたちは想像以上にすごかった。こんな急な坂はすべらないよなあ~と思っていた坂を、小学校1年生の男の子が、ビュンビュン滑っていたし、クルクル回転するターザンロープを作っていた3年生の子たちは、ズルッと滑りおちるたびに、ゲラゲラ笑っていました。子どもって、やっぱり遊びの天才!そんな子どもが子どもでいられる「冒険遊び場」、またぜひやりたいですね。(相澤佐和子)

.....

今回の企画に参加して、こどもたちの発想力・行動力に改めて感動しました。そんなこどもたちのチカラを発揮できる場所が品川では少なくなってきた中、こういう企画があるのは本当に素晴らしいことだと思いました。そして、こどもも大人も遊び方は違うけれど、それを互いに共有し、『こどもだから』『大人だから』という壁がなく一緒に遊び合える素敵な時間でした。そこに自分が参加できたことをうれしく思います。自由に遊び、その中で『自己決定の楽しさ、しかし責任が伴うこと、だから過程や結果を考えるようになる』など、いろいろ自然に学び、それを実行するチカラが身につく、だからどんどん楽しくなる。それを何気なく感じながら成長していける環境が、身近にもっともあればいいなと思うし、それに少しでも貢献できたらいいなと思います。なかなか自らが動いて何かをやることはできませんが、また今回のような企画があつたら、規模は関係なく、参加したいと思います。こどもたちと一緒にこれからも成長していきたいです!(荒井晶子)

.....

ものごとは、願って努力して諦めなければ必ず叶うと、改めて感じさせられる一日でした。実は私、世田谷や羽根木のプレーパークは苦手でした。なにが外様な感じがしてしまって。ただ、我が町品川にプレーパークがあつたらいいなあ。そしたら常連になって、そのうちジャイアンみたいになって、子供達より子供らしくなれるのに・・・。つねづねそう考えていました。あの暑い日。私の木登りを見た子ども達が、真似してガシガシ木登りをするさま。普段なら、「きをつけて!危ないよ!!ケガすんな!!!」などと、大人目線での発言しか出来なくなってしまっている私の頭の中に、入口に掲げたオキテが突如浮かんで来て・・・。木登りのコツ。カラダの使い方。出来ないことに対する助言。子ども達に、遊びの先輩としての助言(というほど立派なものではないけれど)をしている時に、自分の発した言葉に対して、ああ。自分も近所のお兄ちゃん・お姉ちゃんに言われてたセリフだな~これ。ふとした瞬間に、遠い記憶がよみがえって とっても懐かしい気持ち・あつたかい気持ちになってしまい、ひとり木陰でウルウルしておりました。なにせ、と~~~~っても楽しい1日でした♪やっぱり近所に子供の笑い声が響く場所、子供が子供らしくいられる場所が、品川にもぜったい必要だと感じた一日でした。私の出来ることはとっても微力ですが、ぜひまた実行委員の皆さんと意見を交わして、杯も交わして、常設プレーパークを目標に邁進したい気持ちでいっぱいです。(石井大介)

「冒険遊び場が近くにあっていいのになぁ」の何気なく想った 5 年位前。娘が小学校にあがり、「もっと冒険遊び場に遊びに行く子どもが娘の周囲でも増えたらいいなぁ」とお友達ひきつれて足を運び始めた 3 年前。「『外遊びっていいよ〜!』の声かけがもっと出来たらいいなぁ」と学校での全国冒険遊び場づくり協会副代表の天野秀昭さん講演会が 1 年前。そしてまさかまさかの! 「ここで遊べたらいいよね〜!!!!」と思っていた場所での 1 日プレーパーク実現。願えば叶う! 想いが大事! って本当ですね☆(喧嘩ばかりで大した働きもせず・・・) あのはらっぱが、あの日の、あの時間帯は「息を吹き返した」瞬間だったように感じます。確かに違った空気が流れていた!!!そして、暑い夏の日の冒険遊びをより充実したものにしてくれた、荏原三中様からの水のご提供に感謝深謝です。子供たちの輝く笑顔と充実感溢れる表情に、「あ〜こんな遊び場あったらいいな」と大人も感じる事ができたイベント。1 日だけだったけれど、その 1 歩に意味がある!!!! このステキな活動に携われたこと、この活動を通して繋がった方々。本当にありがとうございました♪とっても楽しい 1 日をありがとう!!!! 次に繋げよう〜!!!! (石井貴子)

.....

実踏に行った時は生い茂っていた草が刈られていて残念でしたが当日参加してみて充実した時間が過ごせました。子供たち一緒になって遊んで 1 日を過ごしたのが大きな経験にもなりましたが、サポートする側としては反省すべきところがあります。今回二葉のはらっぱで遊ぼうで感じた事を生かして他のボランティアにも生かしていきたいです。ありがとうございました。(石川雄大)

.....

担当コーナーに関しては、段ボールなどの持ち込みが多くなってしまったことが少し残念です。またこのような機会があったときにはもっとその場にあるものをメインに使ってもの作りができたかと思いました。その他の点では、やはり、担当コーナーにずっといて、他のところを見て回れなかったのが残念です。ブランコやプールなど、遠目にちらっと見ましたがやっぱり体感したかった! 次回に期待です。(石田芳枝)

.....

6 年住んでいたドイツから帰国した時、近所に子どもが自由に遊べる場所がなくてたいへん困りました。その頃わが息子は木登りやたき火など、やりたい遊びがたくさんあるのにすべて禁止され、人間不審に陥っていました。そこで息子の好奇心を満たしてやりたい一心で、羽根木や駒沢のプレーパークに行きました。プレーパークに行くと、ドイツに戻ったような気がして、ホッとしたものです。そこには、自由でのびのびした、気兼ねのない空気がありました。子どもが自由に遊びを実現できる場と、それをやさしく見守る大人たちがいました。

そんな公園が近くにあって、という思いがプレーパークづくりを始めたきっかけでした。10 年前のことです。あれから、子どもをとりまく環境は悪くなるばかりです。1 日も早くプレーパークが品川区にもできることを願っています。(磯田寛子)

強い強い日差しの中、子供達の声が響き渡る日曜日。「二葉のはらっぱ」には元気元気元気が所狭しめ尽くしていました。子どもの体力は本当に見事なもので、朝から気温 30 度を軽く超えるこの日、大人たちは照りつける太陽に、削られるように体力を消耗して行きましたが、子ども達からの元気がその分を大きくカバー。普段ならば、「クーラーの効いた部屋に避難したい」「ビールが飲みたい」「とりあえず休みたい」と口に出してしまうセリフも、一言も出る事がなく、あっという間の 6 時間。これは子ども達から何かが出ているのではないかとひょっとして元気玉?そんなことを感じた、暑い暑い一日でした。(市川貴弘)

青空の下で思い切り遊ぶということはとても大切なことだと改めて感じました。ポータブル化、無線化が進み、今を生きるこども達は体を使った遊びの希薄化が進む一方です。私自身、小さい頃は「どろけい」、「おにごっこ」、「木のぼり」といった遊びを展開し、とにかく外あそびを思うまま遊びました、だからこそ、「自分の責任であそぶ」プレーパークに魅力を感じます。今回、二葉のはらっぱを舞台に何も無いところからいろんな遊びが展開され、こども達の発想力に驚かされたりもしました。大人もこどもも夢中に遊び、共に遊び合い、二葉のはらっぱは素敵な空間となっていました。このような空間が品川のいろんなところで展開していけたらと思いました。(犬塚尚樹)

とっても楽しかったです!全体として、常に明るく暖かい雰囲気などの空間でもあって、みんなの想いが同じ方向を向いていたおかげなのかなと想いました。(今村勉)

79 歳の老躯が 30 分毎に 5 人を相手の「竹とんぼ作り」(6~7 割かた下拵えしたもので)より、もっと大勢の子供たちに遊んでもらえたらと「勝ち残りの竹とんぼ飛ばし」に企画を変更して 20 匹の竹とんぼと番号札(60 枚)の持参で臨んだ。手伝ってくれた爽やかで気持ちのよいお兄さんと 2 人で子供たちに「竹とんぼ飛ばし」の声掛けをした。ところが肝心の子供たちが全く関心を示さない。無理もない看板などの目立つ仕掛けの準備を怠ったからである。急遽、手近かの紙で俄か作りの看板をお兄さんが作ったが、状況は変わらなかった。結局、2 人で通かかの子供たち 20 人に手配りでプレゼントして役目を果たすことにした。はじめ飛ばせなかった子がわれらのアドバイスで上手くなって喜びの目配せを示してくれたり、などなど皆が面白がって遊んでくれた。予想外の展開であったが、やはりやってみれば「竹とんぼ」は昔も今も変わらず子供たちの遊び道具である。ところがいまの親御さんたちは何故か竹とんぼ作りに手を出さない。どうか手を出していただきたい。1200 年前の奈良時代から日本に伝わるユニークな手作り玩具の「竹とんぼ」は、いつも子供たちの遊び仲間なのです。(希望の方々に材料道具)持参で「竹とんぼ作り」を伝授(無料)します。(梅岡弘)

穴掘りを担当しましたが、前日に現地を見たときには、簡単に掘れる場所がなく難しいかなと思いましたが、当日はプールのみずみち作りから川作り、橋づくり、沼作りと発展していて、子どもたちは些細なことを遊びに変えてしまう力に感心しました。初回ながら、プレイパークというコンセプトもある程度理解されている感じもあり、のびのび遊ぶ子どもたちと、見守りながらもそれぞれが楽しんでる大人たちの関係がよく、自分自身もすごく楽しい時間を過ごすことが出来ました。都会育ちの子どもたちにとって、このような空間こそ必要なものだと思えて感じ、これからの自分の活動にも非常にタメになりました。(岡田浩介)

.....

当初は大人が遊び方の見本を見せたり、遊びの提案をする必要があるかと思っていましたが、はじまってみると子どもたちが生き生きと遊びを生み出している姿から、今の子どもたちに欠けている事は、遊ぶ力ではなく、遊べる環境ではないかと感じました。

.....

あの暑い日 とっても暑かった日 強い日差しの下 みんなの顔が輝いていた。 おとなも子どもも スタッフも参加者も 何故かみーんな笑顔だった。「してはいけない」を言ってはいけないこの掟が予想以上に効果をもたらしていたのかもしれない。私が思っていたよりずっと遊びが広がり 遊び込んでいた。人と人との繋がりでイベントを計画 実行でき 又今回更に大きな輪が広がったように思う。キラキラとした顔 ずっと覚えておこう。(荻野美樹)

.....

はじめて参加しました。「おきてがあるから自由に遊べる」がいいです。猛暑の中、蚊にも負けず、スタッフの皆さんの思いと力が集結した「はらっぱ」でした。子どもは自然に笑顔を出した時が一番輝いています。四角四面に囚われず、いろいろな発想や経験が出来る場を作り育てたいですね。(鬼原弘到)

.....

“二百人くらいの規模の子どもたちとはらっぱで遊ぶ”それが今回、このお話を頂いたときの最初のワードでした。私は日々、すまいるスクールで子どもたちと過ごしていますが、学校の垣根を越えたところで“子どもたちと遊ぶ”という経験はあまりなく、それ故に当日はどんな展開で、何が起こり、自分自身もどう子どもたちと関わっていくのだろうかと、非常に楽しみでした。担当は“ラクガキ”、普段なかなかできないことだけにゾクゾク。ひとり絵を描いていると、大人が乗り出し、子どもがまねて、絵が人を呼び、次第にそこには路上の大きな展示会が生まれました。「いい感じ！」心の中で叫びっぱなしでした。最後に、“人の繋がり、その力強さ”を、今回この二葉のはらっぱで遊ぼう！を通して私は思いっきり体感させてもらいました。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとう。(金井豊明)

当日もう少し固めて遊ばせるのかと思っていたら本当に自由にやらせていて驚きました。そして子ども達の発想力に驚き、とても勉強になりました。子どもから教わる事はまだまだいっぱいあるなど改めて思いました。(小林俊太郎)

.....

「お月さんはずっとあたしの後をついてくる。ほら見て。ほら。」「違うよ、僕の後をついてくるんだよ。ほら。」「違うよ、私のあとだよ、ほら今だって・・」と子どもたち5人が真顔で夜空を見上げながらダッシュする後ろを、「いやあ、私だよ。」とにんまりしながら歩いた。なんとも抱き留めておきたい夜道のたまらない興奮。それがこの二葉のはらっぱで白昼夢となって再現したかのような一日だったな。太陽のもと思い思いに夢中な笑顔にゆる〜くみとれる。こんな風にちょっとした高台に寝転がって、風に揺れるはっぱの隙間から空を眺めて、水しぶきに子どもたちの嬌声・・むっくり駆けおりて、のびるの天ぷら。ドラム缶ぶろ。たった一日の身の置き場は・・おやすみ処の係でしょうが〜あ〜「また明日」っていいあいたいよね。(斉藤千秋)

.....

皆様のがんばりで出来上がったところからの参加となりました、はらっぱ。そこここで、子どもたちの元気な笑顔と声があふれていて、私まで幸せ〜♪虫が苦手な息子も、駆けずり回って虫探しに夢中!!って!!やっぱり、子どもは自然の中で育つんだよね〜参加した方から、「また行きたい!!」って何度言われたか・・・また来年も、子どもたちのパワー発揮出来るような「はらっぱ」作りたいです!!皆様に感謝感謝!!(土屋由紀子)

.....

自分で遊びを考えて・自分でケガも、危険も考えて・友達と協力して・・自然の中で自由に遊ぶ。暑さに負けない自由遊び・・本当に大人も子供も、輝いていました。大人は子供達のイキイキワクワクした顔を、見守って・・いつしか大人も自然の中に溶けこんで・・泥んこになって遊ぶ姿・・こんな事してみたかった!子供達から・大人達から・聞こえてきました!色々な遊びを体験出来るように・大人達のサポート、よかったです・食を・芸術?を工作を・楽しみ、自然の中で・・水遊びも!・・・大人達のサポート役、色々協力しあってよかったです・ケガも事故もゼロの大成功・キラリと光ってる、泥の着いた大人達と子供達の顔、顔に・満足感が伝わってきました!又やってみたいな!野原遊び最高!協力して加わって大いに?楽しんでたサポート役の大人達の皆さん!大変にありがとうございました!又遊びましょう!野原で・・(野田和明)

.....

今回、始めはリヤカーの水汲み隊として参加予定でしたが、中学から水を貰えることになり、水汲み隊が不必要になり、当日はフリーで動いていました。自由に冒険遊び場をプラプラして感じてた事は、時間が経つにつれて、人が増えるにつれて、遊び場の雰囲気柔らかくなっていった事です。殺風景な空き地に子どもの笑顔と笑い声と遊びが集まるにつれて優しい雰囲気が出来てきました。遊び場に集まる一人一人が素敵な空間を作っていました。(廣田耕一)

ちらしや報告書の作成に関わりました。事前に「二葉のはらっぱ探検隊」で見学に行った時は、伸び放題の草花、生い茂る木々、たくさんの虫達にワクワクし、開催日を楽しみにしながらの告知ちらし作りでした。うちは子どもがまだ未就学児なので、当日は保護者としての一般参加でしたが、親子ともに夢のような本当に楽しい一日を過ごすことができました。目をきらきらさせて、身体いっぱい使って遊ぶ子ども達。今この時を一緒に過ごすおとな達の笑顔も印象的でした。(武藤紀子)

「二葉のはらっぱ」で子どもたちが遊ぶ。わが家でも息子はビデオゲームで遊んでいます。でも、「はらっぱ」で遊んでいるのが本当の姿なのではないかな?そんな風に思えるほど「二葉のはらっぱ」で遊んでいた子どもたちは自然でした。

そして、「品川はらっぱ探検隊」の活動が始まります。「はらっぱ」って、草や樹が生えて無くても「はらっぱ」と言っただけかしら?と思いました。例えば私自身好きで以前良く探検した東京湾埋め立て地の造成時期は少し危険かもしれませんが、遊び場としてはとても楽しい場所だと感じたからです。街中にもそんな場所があれば子どもたちの想像力がふくらむのではないかと思います。(村田丈一)

なかなか事前打ち合わせに出られず、当日を迎えた。二葉はらっぱにはすでにたくさんの「今日を楽しんじゃおう」という仲間が!今年のアツイ日差しに土はカチカチ、スコップで掘ろうとしても刺さらない。削るようにしているといつの間にか「おもしろそう!」とか「掘りたい!」などと子どもも大人も集まってきた。ホースで水を流したり、スコップで掘り進めたり、石を置いてせきとめダムを作ったり…みんな笑顔で泥んこになって楽しんでいた。…気がついたら撤収の合図の笛が!あっという間にはらっぱが何もなかったように。それがまたいいのかな?次回への夢が膨らみます。今回私は穴堀にとっぷり浸かって楽しんだ。次回は何を楽しもうかな、今からワクワク♪(八神尚美)

